

## 令和6年度 総務委員会管外視察について

- 1 期日 令和6年7月1日（月）、2日（火）
- 2 集合場所 市役所保健センター横 \*移動手段は市マイクロバス
- 3 背景・目的
  - ・飯田市は、昭和12年の市制施行以来、6回の合併を繰り返したが、合併後も旧町村単位のコミュニティが継承され、暮らしに密着した住民主体の地域づくり活動が活発に行われてきた。
  - ・そのような中、平成19年には地方自治法に基づく地域自治区を導入。住民自治の充実を図る観点から地域自治組織を導入したが、社会環境が変化する中で、地域に対する住民の意識も変容してきており、近年は、組合への未加入や住民組織（まちづくり委員会等）の役員の担い手不足といった課題が顕在化してきた。
  - ・また、コロナ禍を経る中で、飯田のまちづくりの合言葉である「ムトス」の精神が弱まりつつあり、“やらされ感”が表面化してきている。
  - ・委員会の所管事務調査のテーマである「人口減少、少子高齢化、社会経済情勢が大きく変化する時代にあっても、“住み続けたい、住んで良かった”と思える飯田にしていくためには」のキーワードである「“住み続けたい、住んで良かった”と思える飯田」とは、すなわち、「地域での暮らしやすさ」や「持続的な地域自治の在り方」を考えていくことであり、これらを考える機会として管外視察を行う。
- 4 視察における視点  
視察先の取り組みを聴取するとともに、下記の視点について意見交換を行う。
  - ① 組合未加入世帯（者）への対応をどのようにしているか（災害時等における必要性をどう考えているか）
  - ② 住民組織（各種団体）の見直しを行ったか、住民の選出や役員への成り手について仕組みがあるか
  - ③ 行政と住民組織（各種団体）との関係はどうか
  - ④ 行政はどのような役割を果たしているか
  - ⑤ 地域幸福度（Well-Being）をどのように活用しているか（「地域での暮らしやすさ」や「持続可能な地域づくり」等、地域課題の発見や解決に活用を図れるか）
- 5 視察先及び視察内容 \*時間はいずれも予定
  - (1) 新潟県長岡市〔7月1日（月） 13:30～15:30〕

- ・大震災からの復興過程は、日常を取り戻すという点で新型コロナ収束後の地域づくりの参考となるものである。人と人とのつながりや伝統文化の復活、地域コミュニティの必要性や維持、変わったもの・変わらないもの等について学ぶ。
- ・また、震災の経験を通じた地域の防災力（自主防災組織の活動・運営状況、人材確保・育成等）の考え方について学ぶ。

(2) 新潟県上越市〔7月2日(月) 10:00～11:30〕

- ・市町村合併を機に旧町村単位で地域自治区を設置し、地域の意見を取りまとめる地域協議会を設置している。また、協議会とは別に、地域活性化に向けた活動を行う任意の住民組織が設立されているなど、飯田市と状況が類似している。
- ・住民組織は会費の他、事業受託により活動資金を確保しているとのことだが、これらの取組や課題、市との関わり、市の支援等について学ぶ。

(3) 長野県茅野市〔7月2日(月) 15:00～16:30〕

- ・デジタル庁では、デジタル田園都市国家構想を受けて地域幸福度(Well-Being)指標の活用を打ち出している。
- ・茅野市は長野県内でいち早く指標を導入しているが、その経過、活用方法等について学ぶ。

6 参加者

総務委員、執行機関職員、議会事務局職員

7 行程(予定)

(1) 7月1日(月)

市役所発 8:00 → 長岡市内で昼食 → アオーレ長岡(視察) 13:30～15:30 → 長岡市泊

(2) 7月2日(火)

長岡市発 8:30 → 上越市役所(視察) 10:00～11:30 → 上越市内で昼食 → 茅野市役所(視察) 15:30～16:30 → 市役所 18:00